

# 思い出の写真シリーズ

## 第19回

### 観壇で取った計時審判の思い出

長野市陸協施設用器具 副部长 早川 幸

今から21~22年程前の昭和51年、全国高等学校陸上競技大会。(長野市陸上競技場)

各都道府県の選手の家族が競技場の周りにテントを張り、炊出しをしながら選手の応援をしていた思い出の1ページである。

昭和53年10月、第33回やまびこ国体。(松本県営陸上競技場)

審判員は、浅間温泉の旅館に1週間泊まりこみ、早朝から夕方まで、競技場には専用バスで通う。

国体の閉会式の時に、上着のポケットに姫リングを入れ、審判団の整列、内側に居て、各都道府県の選手退場行進の時に、沖繩選手団の女性役員に渡した。NHKのカメラが撮影し、夕方6時のニュースに放映された思い出。

当時の計時審判員は、1~5、2~6、3~7、4~8位と3人1組で、ストップウォッチを1人2個持って取った。同時であれば良し、1秒以外の誤差は繰り上げ下げで決まる。計時員だけで12~

13人、決勝審判員は6~7人で行なった。当時の思い出の写真である。

今は機械化されて、電動式で決勝。計時が同時に判定できるようになり、審判員も少数でできるようになりました。審判員の若返りを望みます。



左後部から5番目が早川氏

### 長野市体協競技力向上事業

長野市体育協会では、長野市の総合基本計画に則り、スポーツを軸にした町づくりを目指し、各種スポーツの競技力向上を図る中、平成22年度までに国体出場県選手団に占める長野市出身選手の割合を20%とすることを目標に掲げ、平成16年度から5年間の「重点的な補助事業」を展開し、各団体の競技力及び指導力の強化を行なってきています。

陸上競技協会の場合、19年度秋田国体に出場した長野市出身者は9名で25%の占有率でした。今年度明確な強化目標に向け、今までの選手強化を再検討し、強化育成プログラムを作成、市体協へ申請致しました。20年度の基本構想補助事業補助金は、95万円+成果による強化費5万円の交付がありま

長野市陸上競技協会 理事長 浦野 義忠

した。重点事業と成果による強化費を合算して上限100万円ですので、最高限度額の交付でした。

その他、市体協からは、ジュニア特別対策事業・優秀選手招へい事業・選手強化費を含め、608,000円の交付決定がありました。市体協には、ご理解をいただき、感謝を致しております。好成績を残せたのも、会員の皆様をはじめ、小学生陸上教室・川中島ジュニアクラブ・スポーツコミュニティクラブ東北、小・中・高・大学の先生方の地道な努力と情熱の積み重ねが、成果として現れてきていると思います。会員の皆様に、感謝を申し上げながら、一層のご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

### 編集後記

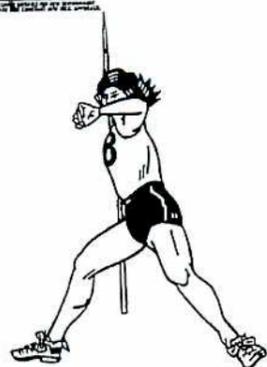
暑い熊谷のTシャツ着たアスリート、インターハイを見学に行きました。第61回秩父宮賜杯、女子走高跳と男子棒高跳を応援。中学時代の先輩の娘さん予選落ち、宮崎北高校山下由香、佐久長聖の今村久美子さん、とても頑張っていました。棒高跳の松澤ジアン成治選手、見事優勝です。昨年、気温40度を記録しているのでとても暑いのかなと心配でしたが、それ程でもなくホッとしました。

第13回神戸市王子競技場、1960年8月5000Mに出場。1位沢木啓祐15分12秒6、5位若松軍蔵15分50秒0、1961年8月草薙競技場、沢木啓祐出場していないので優勝するチャンスだったが、惜しくも第5位15分35秒8に終

わった。今から47年前の私の記録でした。沢木氏は日本陸連の専務理事、昔は啓祐、軍蔵の仲だった。呼びすてていたが、今では近寄りたくない距離ができた。しかし、たまに会うと笑顔で挨拶してくれる。昔の友は誠に有り難いものと感じている。

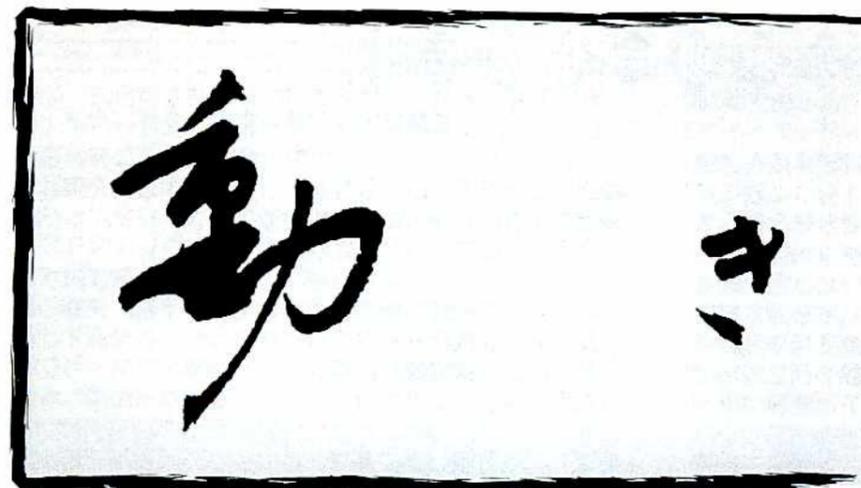
第50回記念北信陸上そして祝賀会、犀北館での記念講演。宮下文雄様の話に感激し、また北京オリンピック塚原直貴400Mリレーの堂々たる銅メダル。そして北海道マラソン高見沢勝2時間12分10秒、県新で初優勝である。誠におめでとうございます。これで年末の全国高校駅伝が優勝できたら最高です。今回も原稿等にご協力を頂き嬉しく感謝しております。平成20年10月 広報部長 若松軍蔵

SHINANO MATE



ATHLETIC UNIFORM  
しなのメイト 株式会社

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2  
PHONE (0268) 81-1336  
FAX (0268) 81-1337



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

長野市陸協会報

# 第 22 号

平成20年10月4日

発行所 長野市陸上競技協会  
発行人 浦野義忠  
編集人 若松軍蔵

## 第50回記念北信地区陸上競技選手権大会

### 盛大に開催される

長野市陸上競技協会 会長 伊藤利博

第50回記念北信地区陸上競技選手権大会の記念行事を8月22日~24日の3日間にわたり盛大に開催することができました。思えば、半世紀におよぶ歴史が刻まれて来た大会が、一度の中止も無く続けられて来たのも、私達先人の並ならぬ努力があったからだ、改めて感謝を申し上げます。

開催当初は、今のような立派な競技場も無く、学校のグラウンドを転々とし、用器具はそれぞれの学校から持ち寄り、審判手当も無く、手弁当で競技運営を行い、北信地区から優秀なアスリートの誕生を夢見て始められたことが、長野市陸協50周年の記念誌の中に記されています。

こうして苦労を重ねて50回を迎えられたわけですので、先輩達の熱い気持ちを受け継いで、私達は更に60回、70回と続けていかなければと思っております。

さて、記念行事の1つとして、講演会が開催されましたが、木曾福島町出身の宮下文雄氏、元神戸製鋼陸上部監督の現役から監督時代の豊富な経験の中から得られた体験談や現在日本を代表するマラソンの監督になられている、教え子達の育成方法など、玉城良二県陸協普及強化委員長との、質問を含めたディスカッションもあり、もう少し時間が欲しかった中身の濃い内容の講演会であったと思います。

記念祝賀会も、来賓、企業関係者、会員を含め120名が出席されて、日頃お世話になっている企業の方々へ感謝状の贈呈、又永年陸協で苦労いただいた会員の表彰等もあり、盛大に開催することができました。

また、競技会には、日本を代表する選手を招待しての競技会で、大変盛り上がった競技会でした。初日の円盤投には、今年日本選手権大会優勝の新潟日報の小林志郎選手の



「スルクをだし チョットあとおし」  
宮下文雄氏

50mを超える豪快な投げを身近に見ることができました。

110mHでは、ミズノの大橋祐二選手の走りに、地元長野吉田高校の早川選手の挑戦も見応えがありました。砲丸投には、ミズノの大橋忠司選手の投げにも、長野県内の大会では見ることができない17m級の投てきにほんろうされました。競技終了後、選手、指導者に技術講習会を開いて下さり、日本のトップ技術を伝授してくれて大変勉強になったと、指導者達も喜んでおりました。

また、地元長野工業高校出身の宮沢洋平選手の走り、西澤直希選手の跳躍にも目をみはるものがありました。また、参加選手には記念品としてボールペン、審判員にはポロシャツ(一部負担をいただき)贈呈できたのも良かったと思っています。

こうして長野市陸協、北信陸協の会員の皆様方のご協力をいただき、無事終了することができました。心より感謝を申し上げます。

北信地区陸上競技協会 表彰者名(敬称略 順不同)  
長野市陸協

- |       |          |
|-------|----------|
| 早川 幸  | 唐木田 勉    |
| 相沢 隆雄 | 久保 寿徳    |
| 山田 昭彦 | 村田 修一    |
| 永井 俊彦 | 小島 君夫    |
| 北澤 武夫 | 松澤 正(故人) |
| 佐藤 立至 | 三井 孝一郎   |

# 高校生アスリートの活躍

## ★ インターハイを終えて ★

私は、今年度行われた第 6 1 回全国高校総体熊谷大会 5 千メートル競歩に出場させて頂き、2 1 分 3 2 秒 7 1 の自己ベストで 4 位入賞を果たすことができました。大会前に目標としていた 2 1 分台を出し 8 位以内に入るという事を達成でき、自身の力を充分に出せたと思います。私が競歩を始め、この種目でインターハイ予選に望もうと決めたのは、北信大会も間近に迫った 4 月中旬でした。本来、長距離をやっていたのですが、2 月に校内で流行した麻疹にかかり、2 週間入院し、その影響でインターハイ予選の校内代表を決める選考レースもふがない結果に終わり、一時は出場を諦めようかと考えていましたが、それでも最後の年、どんな形でもいいから出場したいという気持ちやキャプテンから「競歩をやったらどうだ？」と勧められたこともあり、先生に「競歩をやらせて下さい」とお願いし、その時、先生から「やるか

## ★ 全国高校総体を振り返って ★

7 月 2 6 日から埼玉県熊谷市で全国高校総体が開催され、女子 3 千メートル競歩に出場させていただきました。私は、昨年の全国高校総体でも同じ種目に出場させていただきましたが、歩型違反で失格になり、結果を残すことができず、とても悔しい思いをしました。その悔しさもあって、今年は自己ベストを出して入賞したいという思いを強く持って、レースに挑むことができました。3 千メートル競歩に出場する私にとって、全国高校総体は、他の大会とは異なるものだと思っています。その理由は、全国高校総体には他の大会には無い、予選と決勝があるからです。今まで、予選と決勝のあるレースをしたことがありませんでした。予選を通過できても、決勝で自分のレースができるかという不安がありました。

長野日本大学高等学校 3 年 青木 学

らにはインターハイまで行け」と言われ、その日から他校の先生の指導も受けながら 1 日 1 日集中して充実した練習を送れ、6 月の北信越大会で 3 位に入り、インターハイ出場の切符をつかむことができました。インターハイに出場する時、その雰囲気飲まれずリラックスして競技に望むことを考えて、予選、決勝のレースでそれを実行することができました。自分がインターハイのレースで感じた事は、勝負は最後までどうなるかわからないということです。インターハイの両レースとも千メートルできつくなり、諦めそうになりましたが、そこで 1 度我慢し立て直すことによって、後半でも全国の強豪達と勝負することができ、4 位にも入れました。また、自分を支えてくれた先生方、両親、仲間の支えも大きく感謝しています。この経験を活かし、次からまた頑張るつもりです。

長野東高校 3 年 西澤 千春

ですが、実際、予選が終わった後、思ったよりもダメージが少なく、早く決勝で戦いたいという気持ちでいっぱいになりました。そして、決勝では、予選で出した自己ベストを更新し、県・県高校新記録で 6 位に入賞することができました。私は、入賞をして、改めて昨年のように経験の少ない中で、結果を残すことの大変さを知りました。また、悔しい思いをすることも大切だとわかりました。それによって、次に繋がり、成長していくことができると思います。今後も何事もあきらめずに挑戦する気持ちを持って、陸上生活を送りたいです。レースは本当に緊張しましたが、周りの方々の声援やいつも応援して下さい下さっている方々のお陰で、このような結果や自分自身を成長させてくれるものを感じることができたと思います。ありがとうございました。

## ★ 埼玉インターハイに出場して ★

僕は、先日埼玉県で行われたインターハイで男子 110 メートルハードルに出場させていただき、7 位という成績を収めることができました。今年のインターハイは、昨年の 5 位という成績以上を目指し、大会に臨んでいたわけですが、7 位に沈み、自分をこれまで支えてくださった方々に恩返しができなかったと悔しい気持ちでいっぱいです。インターハイを終えた今、改めて気持ちを整理して考え直してみると、自分の中でどこかに慢心があったのだと思いました。昨年は 5 位までいったのだから、今年ももっと上までいけるだろうという慢心です。自分の最大

長野吉田高等学校 2 年 早川 恭平

の武器であった、常に挑む気持ちを忘れていました。今年のインターハイは、昨年のような「喜び」ではなく、「悔しさ」を学んだ、本当に大きな大会であったと思います。これからシーズン後半の戦い、そして、最後のインターハイに向けた戦いが始まります。昨年はシーズン後半で失速してしまいましたが、今年は再加速していけると思います。また、ケガもしましたが、その中で自分の弱点を強化し、走ることが当たり前でないことを痛感しました。より一層陸上に没頭し、練習に励むことができると思います。



来年のインターハイでは、優勝を目指して頑張りたいと思います。その為に、練習に精進するだけでなく、より高い人間性を目指して、自分の心を磨く努力を忘れずに、優勝するにふさわしい人間になりたいと思います。これからも家族や顧問の先生方、学校の仲間々に迷惑をかけ、支えていただくかもしれない。多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、これからの日々を謙虚に、ひたむきに生活し、練習に打ち込みたいと思います。多くの方々に恩返しができるよう努力いたしますので、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

# 第170 ホープさん

## 長野吉田高校2年 中田 優菜

### 「恵まれた環境」

私がこの吉田高校に入学し、陸上班に入班してから早 1 年半が経ちます。今年の夏は、400m ハードルと 1600m リレーでインターハイ出場を果たすことができました。

私はこの 1 年半を通し、本当に自分は恵まれているんだなあ、と身に染みて感じるようになりました。すばらしい先生、コーチの指導の下に居られること、そして何より切磋琢磨し合える最高の仲間と、毎日練習ができることに対してです。この環境があるからこそ、私は伸びているのであり、チームとしての強さを求めているから、練習の 1 つ 1 つにも必死になって取り組むことができる、そう思います。

個人として持つそれぞれの目標は、みんな違っていてもいいと思います。しかし、「勝ちたい」という気持ちは誰もが持っています。だから私たちは、お互いを仲間として意識すると共に、ライバルとしての意識も必ず持つようにしています。そうすることによって、自然と練習内容も濃いものとなり、日々が充実して、よりレベルアップが望めるのではない



でしょうか。そんな仲間であり、よきライバルである存在に囲まれて、着実に成長していけること、本当に幸せです。

私たちに残された時間は、あと 1 年もありません。高校での陸上を終える時、今よりももっともっと、自分は恵まれたすばらしい環境に居れたのだと実感できるようになっていければ、それが 1 番最高の終わり方になるのではないかと思います。そして、目標とするインターハイ入賞を果たすべく、日々、吉田高校の仲間達と切磋琢磨していきたいです。

## 陸上クラブ紹介 No.18 長野スポーツコミュニティクラブ東北陸上教室

★長野市唯一の地域陸上教室★

当クラブは、通称「スポコミ東北」といい、最近少しずつ知名度が上がってきたのではないかと自負しています。というのも、昨年度の全国小学生陸上競技交流大会に、黒岩夏都妃さんが 5 年女子 100m の県代表として出場。更に今年度は引き続き 6 年女子 100m で黒岩さんが、そして 5 年男子 100m で松橋大夢君が県代表として同大会に出場。また昨年度は小学生として活躍した吉村直也君が中学 1 年走幅跳でジュニアオリンピック県代表メンバーに選ばれるなど、著しい躍進が続いているからです。

スポコミ東北は、長野市東北中学校区を中心とした総合型地域スポーツクラブであり、他にもバスケットボールやバレーボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、エアロビクス、合気道など様々なクラブが活動しています。陸上教室には、東北中学校、東部中学校の陸上部と地域の小学生が、毎週土曜日の午前中に、障害者福祉センター（サンアップ）の陸上競技場を借りて練習を行なっています。常時 8 0 名近くのクラブ員がまとまって組織的に練習をしており、お互いに切磋琢磨しながら大変充実した質の高い練習になっています。小学生は当クラブがスタートした頃は 5 人程度でしたが、今では 2 0 人をこえ、更にあちこちから噂を聞きつけ人数



が増えていきます。小学生が伸びるのは、中学生がいろいろ教えてくれるからです。また当クラブの目玉ともいえますが、陸上部の先生だけでなく、地域の陸上好きのお父さん達 6 名が熱心に指導し、時には子ども達と一緒に走ってくれるのです。参加する小学生はいつも笑顔で目を輝かせて来ます。大会で勝つことだけが目的でなく、いろいろな状況の子ども達に合わせ、楽しく活動できるクラブ。それが、スポコミ東北陸上教室です。今回、このようなクラブを紹介する場をいただき、ありがとうございました。スポコミ東北陸上教室 代表 藤牧博和